



総合調査設計では、大阪を中心としたまちの魅力を発見、発掘することを目的として「大阪探検隊」なる活動を行っています。

今回ご紹介する内容は、11月15日(金)から24日(日)の間、大阪中之島にて開催されたりバーサイドフェスティバル「光と音のファンタジー」と中央公会堂のリニューアルです。

光と音のファンタジー（土佐堀川）

このイベントは土佐堀川の淀屋橋と梅檀木橋との間に、コンピュータ制御した照明（LEDと思われる）を設置し、ジャズなどの音楽に合わせて点滅や変色をさせ、リズムカルな空間演出を行おうという試みです。光は土佐堀川の川面に映り込むため、川と光の一体的な演出が行えます。

はじめに、淀屋橋のアルコーブから眺めさせてもらいました。この視点場からは、距離が離れているせいか、そのダイナミック性は少し薄く感じられました。ただ逆に、現地に近づきたいという期待感が生まれます。距離を有することが劇でいうプロローグ空間としてなりたっていると考えられます。



市役所南を通りイベント場所に近づくと、光とともにスピーカーより聞こえる音楽が気分を盛り上げます。色とりどりの発光体は、まるで浮遊しているかのようにあり川面とともにダンサンプルな動きを見せます。

梅檀木橋に向かいます。ここからも淀屋橋と同様な距離で見えます。



その地形、空間とシンクロした光演出を行うという試みは、これからの魅力的な都心整備の実験材料として、楽しく、美しいものを見せていただいたと思います。

ただ現地周辺は高木が列植されているため、沿川よりその光がやや見づらかったのが残念です。



中央公会堂（ライトアップ）



その脚で、最近改装工事が終了した中央公会堂のライトアップを見学しました。公会堂のライトアップは、照明デザイン界のトップデザイナーである石井事務所が担当したのですが、公会堂壁面や装飾の凹凸、陰影を利用し公会堂の持つ魅力が大いに引き出されているように感じられます。

小雨交じりの中の見学であったため、より象徴的な夜間景観をつくりあげているように見えます。ここはデートコースとして必見ではないでしょうか。ロマンティックな空間、そしておしゃれなレストラン。中では美味しそうに赤ワインで乾杯する姿が見え、なんともうらやましい・・・今度行こうと心に誓いました。



中央公会堂（リニューアルオープン）

一般公開の時には気がつかなかったのですが、大集会室の観客席は前列の人の頭がじゃまにならないように千鳥に配列されています。



デザイン的にも後ろから見ると、いすの背もたれが鱗状でとても新鮮に見えます。単純なことですが、とても画期的だと思います。

運悪く前列に座高の高い人が座った時など、長時間不自由な姿勢を強いられることから解放されるわけですから。